

『あやはし』とは

琉球最古の歌謡集「おもろさうし」の中に出てくる言葉で「美しい橋」を表す、「あやごはし」に由来しています。

沖縄本島東海岸に突き出た与勝半島とこれに連なる島々から構成される与勝地域は、古くから風光明媚な自然に育まれた美しい島々のあるとして知られてきました。

この島々で、かつて琉球の先人たちは「あやご」と称される歌を謡いながら日々の平穏を願う祈りを神に捧げました。

「おもろさうし」では、その祈りで島々に橋をかけることにたとえて「あやごはしをかける」と表現しています。

こうした先人の願いがなったかのように今日、すべての島々が橋で結ばれ未来への発展の足がかりが築かれました。

旧与那城町ではこの美しい海にかかる橋を「心の架け橋」として、又、「子どもたちの未来への夢の架け橋」として、さらには「世界への架け橋」として永遠に発展していくことを祈りつつ、「あやはしの町よなしる」（平成6年4月1日条例制定）と名づけたのです。

旧与那城町 広報第141号より抜粋・加筆（平成13年3月発行）

『おもろさうし』とは

尚清王代の嘉靖10年（1531年）から尚豊王代の天啓3年（1623年）にかけて首里王府によって編纂された歌集。沖縄の古い歌謡であるおもろを集録したものである。

漢字表記すれば「おもろ草紙」となり、大和の「草紙」に倣って命名されたものと考えられる。

なお「おもろ」の語源は「うむい（=思ひ）」であり、そのルーツは祭祀における祝詞だったと考えられている。全22巻。

フリー百科事典 ウィキペディアより抜粋

『海中道路』とは

沖縄県うるま市にある道路。沖縄県道10号伊計平良川線の一部であり、勝連半島から平安座島を結ぶ4.7kmの道路である。

海を横切る堤防（土手道）によって構成されており、船舶航行のための橋1か所と海水汚染防止のための水路2か所が設けられている。→（平安座海中大橋・世開橋）

勝連半島の屋慶名地区と平安座島の間には浅瀬が広がっていた。

そして古来より干潮時には徒歩で行き来していた。1956年から、アメリカ軍より払い下げられた水陸両用トラックが半島と島の間を往来していた。

1961年に建設開始→台風頓挫、1970年、ガルフ社が平安座島に進出→沖縄石油基地建設、島民に対する見返りとパイプライン敷設のためにガルフ社の負担で海中道路を建設することになった1971年（昭和46年）5月に着工し、翌年の4月22日に2車線の道路として開通した。

完成した海中道路は1974年（昭和49年）、与那城村（当時）に無償譲渡され、村道となった。

1991年（平成3年）には沖縄県道に昇格した。そして1999年（平成11年）に4車線化が完了した。

フリー百科事典 ウィキペディアより抜粋

※ 赤い橋の正式名称は『平安座海中大橋』、「あやはし」の象徴的建造物である。

『うるま市』の地勢・人口

平成17年4月1日に具志川市・石川市・勝連町・与那城町が合併し、誕生。

那覇市より北東へ25km、沖縄本島中部の東海岸に位置しており、東に金武湾、南に中城湾の両湾に接している。

東南に伸びる半島部の北方および東方海上には、有人・無人を含めて8つの島々があり、このうち5つの島は海中道路や橋によって結ばれています。

うるま市役所ホームページより



2012年1月1日 現在
人口 119,567人
男 59,761人
女 59,806人
世帯数 45,693戸